

***** 目次 *****

P1 新専任幹事のご挨拶	大石 博司
P2 仲間たちの近況報告 (1)	
1 班	石川 隆一
2 班	松澤 淑子
P3 仲間たちの近況報告 (2)	
3 班	山口 千恵子
4 班	上山 富美代
P4 私の玉手箱	堂下 登美子
P5 写真コーナー	石川 隆一
P6 樹形ウォッチング	遊上 眞一
P7 絵画コーナー	山下 勝弘
//	木邨 圭子
//	谷坂 修二
//	岩城 正大
P8 リレー随筆	鈴鹿 絹代
俳句・川柳	山上 恵子

◇自然と文化だより◇

本誌への投稿有難うございました。
今号は絵を沢山投稿していただきました。
改めて、才能豊かな皆様が多いことを知らされました。

趣味としてなら、発表の機会が多い
ほど、上達にも、創造性の発揮にも繋
がると思います。

先日、自然大学校の文化祭が開催さ
れましたが、本誌に投稿して、文化祭
へも提出参加するような流れができれば
良いのではと思います。

来年も積極的投稿をよろしくお願い
申し上げます。

N.A

～新専任幹事のご挨拶～

調査委員会は今・・・

調査専任幹事 大石 博司

今年度から調査委員会の専任幹事を担当しています。第39号が発刊されるのは12月末なのでご挨拶？としては遅くなりました。自然と文化科に入り草本のことを少し勉強をと思い調査委員会に属し3年目です。打診を受け熟慮？の末、草本の知識量はまだまだながら委員会の運営は別と考え引き受けました。かなりの時間を取られることを覚悟し、お世話になっている分、少しでも貢献できればと思っています。

自然と文化科はしっかりとしたルールで運営され数ある研究科の中で屈指の有力な組織だと思います。一方、100名を超える大所帯となり、科員の在籍年数および年齢差も10年以上と開いてきました。価値観のずれなどで科の一体感の維持は難しい状況となりつつあるように思います。そのような中、見直しを適宜行い円滑な運営を維持されてきた先輩方のご努力には頭が下がります。

調査委員会は3月から10月まで月2回の草本の定点調査を主な活動とし、加えて草本・シダの勉強会を年に3回開催しています。これらはすべて金曜日以外の活動です。科の全体行事は年に2～3回程度の担当となっていて、観察委員会や企画委員会に比べ少なくなっています。そのためか、科への貢献と言う観点から疑問符を投げかけられ、また、調査結果の科への発信が十分ではないとの指摘も受けました。大変な時期に引き受けてしまったと思いますが、後の祭り。

このような課題を抱え新年度が始まりました。現時点は委員会の根本的な見直しはなかなか出来ず、例年通りの活動を維持するのが精一杯の状態です。科の全体行事はやり方を変更する準備をしていましたが天候のため2回とも中止となりました。ただ、毎回の調査結果や勉強会の方は適宜HPで報告ができました。また、ここ3年間の調査結果のまとめとして「武田尾の草花3」の編集を急ピッチで進めています。完成すれば過去にまとめられている分も含め、武田尾の草本は100種ほど個別に詳しく紹介できたことになります。このようにメンバーの協力を得ながら積極的な取組みを心掛けています。皆さまのご支援をいただければ大変ありがたいです。

最後になりますが、委員会の中でできることは現在の活動を活性化することが中心になります。委員会のあり方そのものは委員会を含め全体での議論が必要かと思います。以上、挨拶ではなく現状報告となりました。



「色」の道は深く、より深く懇ろに

1 班 石川 隆一

自然と文化だより第 34 号にボタニカルアートとの出会いを書きました。そして今はその「色」の道に溺れそうになっています。とは言っても遅筆で、新たには 5 点しか描けていません。マテバシイ、ノブドウ、ボケ、そして（次号掲載予定の）トウグミ、イヌホウズキです。

こうして作品を眺めてみますと、植物画は植物の肖像画であり、最も美しい一瞬をとらえて写し取ることの大切さを感じます。春は花の季節で、暖かい日差しを受けて刻々と変化します。その為花のデッサンと彩色にはスピードが要求されます。夏の花はまだ描いたことはありませんが、一日花が多くて、例えばツユクサは朝に開花し、昼前には花を閉じる態勢に入ります。「その」花が一番良い状態の時間に画用紙に表現したいと思っています。秋は色づきと実りの時です。豊かさと彩の美しさに落ち着きを持って対面できます。今コムラサキを描いているのですが、その枝には宝石のような紫色の果実がたわわに実っています。時々ポロリと落ちて「あらら」と思う時があります。しかし果実の色や形は安定していますので少し時間をかけて描くことが出来ます。一方、葉は時間が経つと内側に巻いてきたり、落葉してしまいます。慌てて拾って葉柄を枝に合わせたりするのは陶器が欠けた時の反応と同じだなあと一人笑ったりします。冬はサザンカ、ツバキ、スイセン、ロウバイなどがありますが、まだ挑戦出来ていません。その他にもモクレンやネコヤナギなど寒さに耐える冬芽の姿なども描きたい題材です。

さて、ボタニカルアートで使う透明水彩絵の具は、溶く水の分量加減で一つの絵の具から様々な色合いを出すことが出来ます。また特性として、重ね塗りした時に下地の色が透けて見えますので、それを利用して幅広い表現が可能になります。色調で、例えば赤系統の色を表す言葉に鴉色、躑躅色、桜色、薔薇色、韓紅、珊瑚色、紅梅色、桃色、紅赤、茜色、・・・など実に多彩な言葉がありますが、植物の色はもっと豊かで連続的な色で満ち溢れています。私はそれを画用紙の上に彩色した「肖像画」として描き留めていきたいと考えています。

最後に、「色」の道は奥が深いですが、植物の今を生き活きと力強く描けるように迅速性にも配慮して、画力を向上させたいと思っています。

植物の香りと共に

2 班 松澤 淑子

本科、高等科、自然と文化科と進んだものの研究部の皆様の植物への取り組みの深さ、知識の豊富さには、ただただ感心し、疲れを知らない若々しい探求心にはいつも驚かされております。

街中で生活する私にとって、観察会で訪れる近郊の里山は、駅に降り立つだけで空気が柔らかく感じられます。さらに山に近づくにつれ、落葉を踏みしめながら木々の間に歩を進めると、いつの間にか、すがすがしい香りに包まれている事に気づかされます。植物の名前をなかなか覚えられないのは、本当に困った事ですが、ゆったりとした幸せなひとときです。

歩くことの出来ない植物は虫や動物に香りのメッセージを発して、人間にも同じように働きかけているのですね。人間の五感のなかで嗅覚は特別な働き方をして、香りは大脳の辺縁系にダイレクトに伝達され、身体がリラックスしたり、遠い記憶が蘇えったりする為、医療の分野でも認知症の改善に取り入れ始めているそうです。

クロモジの調査では、香りについても学ぶ事ができました。強い殺菌作用があることから和菓子に用いられている爪楊枝については周知のことですが、生薬としては、ウショウとして薬用養命酒に一番多く配合されているとの事。就寝前にいただくと気持ちがリラックスして、よい眠りへと導いてくれるといわれています。

普段の生活にも香りを取り入れ、ゆったりとした豊かな時間を過ごしていければと思っております。



退職後に得た仲間達

3班 山口 千恵子

本科緑組 2 班の例会で「枚方宿」を散策。

枚方宿は東海道の 56 番目の宿場町として栄えた歴史を持ちます。東海道って 53 次では？と思ってしまうますが実は大坂まで延長されて設けられた 4 つの宿場町(54 次「伏見宿」、55 次「淀宿」、56 次「枚方宿」、57 次「守口宿」)が存在します。私は最終地の守口に住んでいます。

《行程》枚方公園駅→郵便屋の渡し跡→西見付→鍵屋資料館→淀川舟運枚方浜→枚方寺内町木南邸→浄念寺→真宗大谷派香雲台願生坊→御茶屋御殿跡→本陣跡→枚方市駅

〈鍵屋資料館〉

平成 9 年までは料理旅館「鍵屋」の建物を利用江戸時代は宿屋を営み、幕末頃になると淀川 三十石船の「船待ち宿」として繁盛してきたそうです。ちょうど枚方宿街道菊花祭(10.24~11.12)の開催中で町のあちこちで市内



の小・中学校で育てられた約 200 株の大輪の菊を見ることが出来ました。因みに枚方市の木は柳、花は菊です。(写真 2 枚は H.30.11.12 撮影)

高等科の第 2 回同窓会は妙見山。桜やモミジの紅葉を愛でながら秋のさわやかな一日を楽しみました。お昼はバーベキュー、美味しかったです。

自然と文化科の新人 11 名は金曜の活動日や箕面の研修・観察下見等の後

は反省会もする心強い仲間です。10 月是有志 8 名で 1 泊旅行。本来の目的、地ビール飲み放題のお店ガンバリウスと大山周辺の自然を満喫



してきました。(写真は H.30.10.8 三平山にて)

定年退職して 3 年目、シニア自然大学校に入っ
て本科、高等科、自然と文化科、千里ネイチャー、
鉱物クラブ、アロマテラピー等で大勢の素敵な仲
間を得られたことに日々、感謝しています。

天空の都市を訪れて

4 班 上山 富美代

数ある世界遺産の中で、一度は訪れられたらと思っていたのがペルーのマチュピチュ遺跡である。

今年、その機会に恵まれた。チルカからインカ道を 3 泊 4 日かけてトレッキングし「太陽の門」に辿り着くというものだ。82km の道。整えられた石畳や岩をくり抜いた階段等、このような山奥に当時の人達はどういう思いで道をつけたのか、そして行き交ったのか、思いを馳せながら歩いていく。道中には多種の植物が植生し、特にラン科の植物がこかしこに自生している。見つける度に歓喜しつつ、アンデス山脈も遠望できる最高地点ワルミワニユスカ(4215m)の峠を越えてマチュピチュに下っていく。長い道のりだが、幾つかの遺跡もあり立ち寄る。その一つに、ミニ・マ



チュピチュとも言えるウイニャイワイナ遺跡がある。切り立った山の斜面に、上手く太陽光を取り入れるよう段々畑にして営んだようだ。困難に思える場でも、そこにある自然物を利用して共存してきた人々の知恵の凄さを感じずにはいられない。

素朴な美を堪能しながら、ついに「太陽の門」に到着。眼下に現れた遺跡に、うお～と思わず唸り声が出た。周囲をぐるりと渓谷に隔たれた天空都市、圧巻だ。うらうら、うらうら、う～♪「コンドルが飛んでいく」が脳裏に流れ、上空を優雅に飛ぶがごとく心境になる。でも、このような立地になぜ都市



を？ インカ帝国の在りし日を想起させる堅牢な都市造形(巧みに岩石を利用)とされるが、謎に包まれている事も多いらしい。説を聞けば聞く程、魅惑的なインカの空気に引き込まれていく。

現在社会の過度の便利さに慣れてしまっている私だが、シンプルで大自然と共に生きる奥深さを楽しみと再認識できた旅となった。そして、あれもこれも謎めくインカの魅力に心奪われ、今も私の脳裏でコンドルは飛び続けている。

自然災害

1 班 堂下 登美子

今年の夏は続けざまの自然災害に襲われた近畿地方。地震、豪雨、台風 21 号。その影響で自然と文化科の活動も何度も中止を余儀なくされた。

「日本は自然災害と背中合わせだという自覚が必要だ」と言われている。振り返ってみれば、今まで何度も自然災害を経験している。

生まれてまだ半年ほどしか経っていない頃、福井震災があった。安普請の我が家はぺちゃんこに潰れたらしい。私の姿が見えないので両親



は探したところ、運よく縁の下にいて助かったとのこと。その時の小さい傷は今も顔に残っている。

小学生の頃、台風や豪雨の度に近くの荒川が氾濫し、床下、床上浸水を経験した。両親は食料品店を営んでいたが、家族総出で店の品物を 2 階に上げたり、畳を台の上に載せたりした。床上の時は、階段の途中から用を足した。近所の人たちが屋根伝いに店の品物を買いに来た。水害は後始末も大変で、度重なる水害に母親は、「どうせ来るのなら風台風が来てほしい。雨台風だと土地の低い所だけ被害を受ける。風ならまんべんなく皆の家に来るのに。」とぼやいていた。

その後、荒川も改修され洪水経験は過去のものとなるはずだった、が……。職を得て、大東市に住んで程なく第二寝屋川の氾濫で床下浸水に。3 年後に再び氾濫

し、床上浸水となった。叔母の家に居候の身であったが、畳を上げられず濡らした。大東市は



薄い毛布や古い下着、日用品を配給してくれた。高石市に住むようになってからも洪水。芦田川が氾濫し高石市の多くが床下、床上浸水となった。我が家は運よく道一つ隔てて免れたが。水の引いた後、道の両側至る所に濡れた畳が並んでいた。

福井では、昭和 38 年の豪雪も経験した。両親は商売そっちのけで雪かきに明け暮れた。子どもた

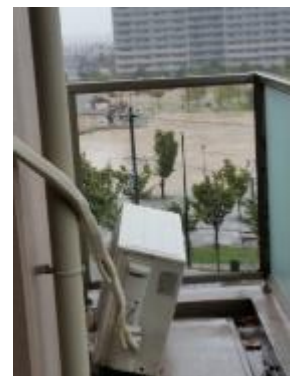
ちも登校前・帰宅後に雪かきを手伝った。中学校からスコップを持って登校するように連絡が入り、午前中は校舎周りの雪かきを全校生徒でやったりもした。道路から屋根に落ちて怪我をしたというニュースは、あり得ると思った。高校入試が 1 週間延期された。



皆さんの多くも

被災されただろう阪神淡路大震災。激しい揺れが来た時、すでに起きてはいたが机の下などに入らず柱にしがみついた。揺れが収まって外に出た方が良いのか室内にいた方が良いのか判断できず、なおもしがみついていた。今思えばとても危険なことをしていたと言える。我が家は壁と軒桁に少し隙間が出来、部屋から空が見えるようになった位の被害で済んだ。

そして、今回の台風 21 号。風台風の威力と恐ろしさを思い知らされた。今はマンションに住んでいるので強い風台風と言っても、特に被害はないであろうと高をくくっていた。直撃の 1 時間ほど前、外の様子が気になり、ほんのわずかに戸を開けた。風の吠えるような唸りと強さに驚き、すぐに閉めた。怖かった。風が収まってから、ベランダ側から外を見ようとして息を飲んだ。想定外の光景が。ベランダに敷き詰めてあったウッド



パネルが半分以上無くなっていた。恐る恐るベランダに出てみるとベランダのガラスの 1 枚は吹き飛んでいて、もう 1 枚は割れていた。クーラーの重い室外機が大きく移動していた。飛んで行ったウッドパネルなどが

近くの家に迷惑をかけたかもと心が痛んだ。多くは近くの公園に飛んだことが分かりホッとした。風台風悔るなかれ。1 日だけだったが停電と断水のため不便な生活を強いられた。自然災害は何度経験しても、過ぎてしまえば自分だけは安全圏にいたいと思いがちだ。自然の猛威とは背中合わせ。災害に対する備えを普段からしておかねば。取りあえず非常食・水などを補充した。お風呂に水をはった。



林立するメタセコイア、私の好きな場所です。
紅葉はもう少し先のようです。

花の文化園は河内長野にある植物園です。晩秋のある日、陽気に誘われ訪れました。台風21号の傷跡もほぼ修復され、いつもの静けさが戻っていました。植物たちの今の生きざまをご覧ください。冬はもうそこ迄来ています。



「炉開き」：チャノキとユキツバキの自然交雑種で、親木は天然記念物に指定



ナカガワノギク：徳島県那賀川沿いに見られる野菊による命名



カジカエデ：日本固有種、葉形がクワ科のカジノキに似ることからの名。紅葉がきれい。



ヒマラヤザクラ：満開でした



キイトラッキョウ（紀伊糸辣韭）イトラッキョウの変種（紀伊半島）



秋の実り① シャシャンボ



秋の実り② ガmazumi



秋の実り③ サンシュユ

◆◆◆ 端正な樹形 メタセコイア ◆◆◆

1 班 遊上 眞一



京都市西京区 陸上自衛隊桂駐屯地に、高さ約 30m の高木が 16 本 一列に並んでいます。
端正で 同じ樹形のメタセコイアを 真横から見ると どんな姿に 見えるでしょうか？
(※答えは、投稿箱で)



金剛山の霧氷。



服部緑化植物園の黄葉



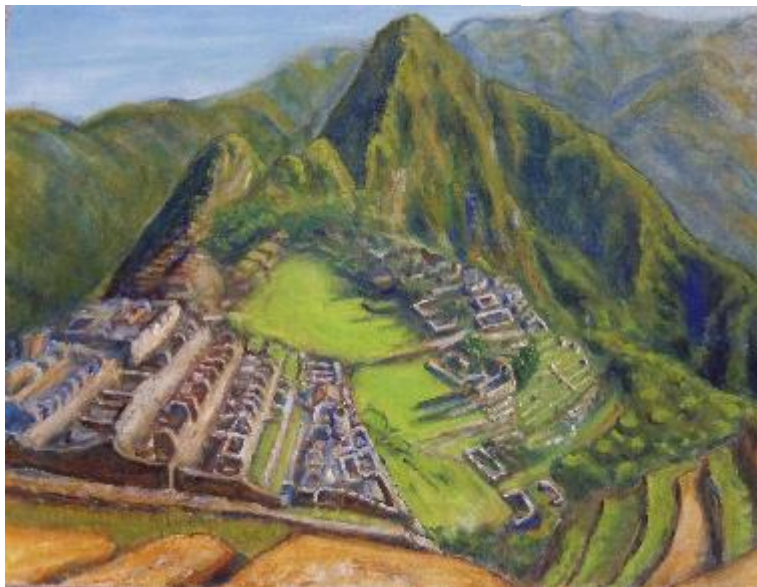
マキノ メタセコイア並木、
500 本の木が、2,400m 続きます。



「日本に最初に入った 100 本のうち 3 本
がここにあります」(京大 上賀茂演習林)

マチュピチュ

1班 山下 勝弘



明石海峡大橋

4班 谷坂 修二



ローマ

1班 木邨 圭子



ナンキンハゼの並木

4班 岩城 正大



リレー随筆

一度は諦めたけれど・・・

2班 鈴鹿 絹代

本科花組の頃、バス旅行で、越前和紙の里に立ち寄ったことがある。越前和紙の歴史や技法を学び、紙漉きを体験し、はがきを作った。はがきがかわくまでの間、散策を兼ねて近くの展示場らしき所に行ったところ、イベントのため、地元の方々が集まって製作したという大きな「花まり」(くす玉)や火消し用の「まとい」が飾ってあった。

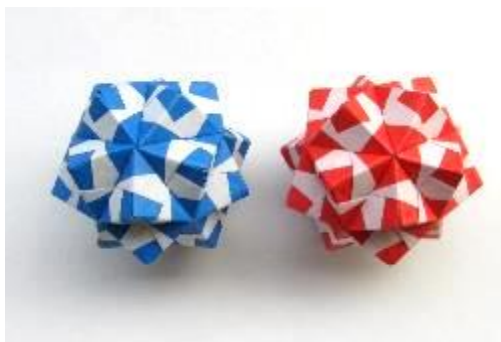
「花まり」は直径70cmくらいの大きさと華やか。「まとい」は持ち手を含めて1.5mくらいの長さだったと思う。「まとい」は白黒基調であったが、和紙ならではの品の良さがあったて魅了された。

他にも作品は数点あり、どれも見事なものばかり。

さっそく和紙を買い求め、自宅で手順書とにらめっこしながら折ってはみたものの、「連鶴」はなんとか形になったが小さな「花まり」は思うようにならず、ついに諦めてしまった。

それから2年程たったある日、たまたま近くの内科医院に行ったところ、受付のカウンターに綺麗な30面体の折り紙が2〜3個飾ってあった。月1回来院する高齢の男性患者さんが、趣味で作ったものだという。諦めていた多面体折り紙への思いが湧いてきた。その方は折り紙教室を開いている方ではないという。看護師さんのご厚意で、その方から教えていただく機会を得た。和紙は厚みがあるので折りにくく、市販の折り紙を使う。

1度諦めた多面体折り紙だが出来上がるとやはり嬉しい。進学祝いに添えたり、外国の方に差し上げたりすることもある。



俳句・川柳コーナー

3班 山上 恵子

○俳句

書初展墨跡りんと匂ひけり
大安も吉日も無き新暦
明暗をつけてとんどの照らす夜

○川柳

有りすぎて間際になって無い時間
締め切りを過ぎて行きたくなった旅
グルメです中国餃子も食べました



万博ネイチャーフェス



2018/11/3
万博記念公園



今年度も残すところ3ヶ月。活動日が休会となりませんよう願います。

第39号が発刊できました。ご協力ありがとうございました。

(広報委員会)